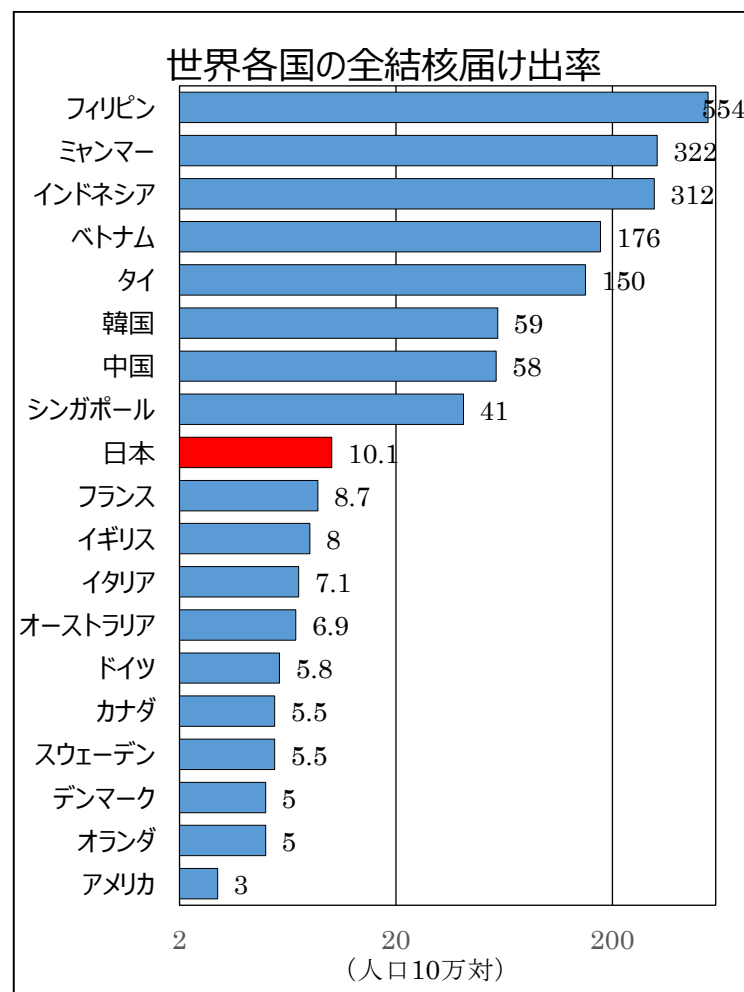


世界の結核、日本の結核

2020年におけるわが国の全結核患者届け出率は、人口10万対10.1になりました。しかし、未だに年間1万2千人以上の方が結核を発症しており、結核は患者数からすると、わが国最大の伝染病の一つです。下図で示された通り、他の先進国と比べるとその率はまだ高いですが、結核低まん延国とされる人口10万対10以下のレベルに達するのはそれほど遠くないと推測されます。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により結核患者の届け出数が減少しているとも考えられるので、静観はできません。

わが国における結核患者は、高齢者層と都市部における社会的困難層との2つの人口集団に偏在してきており、患者さんの必要に応じた、よりきめ細かなケアが必要となっています。また、外国生まれ結核患者の割合は、全体では11%ですが、若年層（20～29歳）においては、その割合が70%を超えており、外国生まれ結核患者への対応も必要となっています。

空気感染する慢性呼吸器疾患である結核を早期に撲滅するためには、各患者の必要に応じて効率的な結核対策を忍耐強く、今後も継続して実施していかなければなりません。



2021.9 現在

日本の数値は「結核の統計 2021」、諸外国は WHO's Global TB report 2019 をそれぞれ引用